



# News Letter

2021/09

日本医療安全学会事務局

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20-1 浜松医科大学総合人間科学基礎研究棟306号室

<http://www.jpscs.org/> Email: [office@jpscs.org](mailto:office@jpscs.org) TEL:053-433-3812 FAX:053-435-2236

## 目次

- 01 世界患者安全の日 2021(World Patient Safety Day: WPSD 2021)のご案内
- 04 医療の質・安全学会の2021 WHO 世界患者安全の日 妊産婦安全推進シンポジウムのご案内
- 07 委員会・部会活動報告:機関誌編集委員会、広報委員会
- 08 第7回学術総会を振り返って(四柳先生ほか3名)
- 10 編集後記

## 世界患者安全の日 2021 (World Patient Safety Day: WPSD 2021)のご案内

医療安全学会 広報委員会  
委員 荒神 裕之

9月17日は、「世界患者安全の日 2021(World Patient Safety Day: WPSD 2021)」の日です。2019年の第72回世界保健総会(World Health Assembly: WHA)における「WHA72.6 患者安全に関するグローバルアクション(WHA72.6 – “Global action on patient safety”)」の採択を受けて制定されました。

世界患者安全の日の制定目的は、患者安全に関する世界的な理解を深め、医療安全に対する国民の関与を高め、医療における回避可能な被害を防止・削減するための世界的な行動を促進することです。2016年3月にロンドン(イギリス)で開催された「第1回閣僚級世界患者安全サミット(1<sup>st</sup> Annual global ministerial summits on patient safety)」と、2017年3月にボン(ドイツ)で開催された第2回サミットにおいて制定が提案され、2019年のWHAで制定にこぎつけました。

9月17日に制定された理由は、第2回サミットで世界患者安全の日の制定を提案したドイツにあります。ドイツには、2005年に設立された「ドイツ患者安全連合(German Coalition for Patient Safety: APS)」という非営利団体

(NPO)があり、政府の保健相も関与して財政的支援も行いながら、ドイツ全土で患者安全推進の取り組みが行われています。中でも、「国際患者安全の日(International Patient Safety Day)」の取り組みは、オーストリアやスイスにある患者安全推進の団体と協働して取り組みが行われていたイベントで、患者安全に関わる問題の世間の関心、特にマスコミの関心を高めながら、患者安全推進の活動を紹介する取り組みとして毎年、9月17日に開催されていました(図1)。世界患者安全の日は、このイベントが原型となっており、ドイツの提案通り、9月17日に制定されました。

2019年の第1回患者安全の日の取り組みから、毎年テーマとキャンペーンスローガンが定められ(図2)、世界各国で患者安全の推進に向けた様々な取り組みが行われています。初年度は、周知期間が短かったにも関わらず、82カ国がキャンペーンに参加し、国際会議やセミナーなどの取り組みや、WHOが推奨したテーマカラーのオレンジ色でのモニュメントのライトアップなどが行われました。

日本国内でも記念セミナーを中心とした取り組みが行われ、厚生労働省ホームページを通じて紹介されています

(第1回:[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_06247.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_06247.html),

第2回:[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_12758.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_12758.html))。

第3回となる今年は、Safe maternal and newborn care(安全な妊産婦と新生児のケア)がテーマです。世界的にみても妊産婦や新生児死亡率の削減は大きく前進していますが、SDGs(持続可能な開発目標)3の「すべての人に健康と福祉を」の目標達成には程遠い状況と認識されており、世界中での取り組み加速を目指しています。特に、2020年初頭からのコロナ禍では、妊産婦の感染リスクや医療資源の不足が生じ、妊産婦・新生児死亡率が世界的にも低く抑えられている日本においても「安全な妊産婦と新生児のケア」に向けた積極的な取り組みが求められています。世界的にみると、コロナ禍の前から、毎日810人の女性と6700人の新生児が主に出産前後で亡くなっています。また、毎年200万人発生している死産のうち、約40%が陣痛中の発生であるとされ、安全で質の高いケアの提供が実現すれば回避可能なものが多く含まれているとされています。その他にも配偶者暴力(Domestic Violence: DV)の問題や特定妊婦の問題、産後うつなど、妊産婦と新生児をめぐる様々な問題があり、「安全な妊産婦と新生児のケア」を目指した取り組みが期待されています。

第3回世界患者安全の日では、以下に示す活動の目的が示されています。

1. 妊産婦と新生児の安全、特に出産時の安全に関する世界的な認識を高めること
2. 妊産婦と新生児の安全を向上させるために、複数のステークホルダーを巻き込み、効果的かつ革新的な戦略を採用すること
3. 取り組みの規模を拡大し、支援の手が届かない人々に手を差し伸べ、安全な妊産婦と新生児のケア、特に出産時のケアを確保するために、すべての関係者が緊急かつ持続可能な行動を取るよう求めること
4. 出産時のすべての女性と新生児の回避可能なリスクと被害を防ぐために、ケアの時点でベストプラクティスを採用するよう提唱すること

今年も世界中で多様な活動が企画されています。WHO では、活動予定を収集しており、

<https://extranet.who.int/dataformv3/index.php/936718> から登録することが可能です(英語のみ)。是非、キャンペーン活動にご参加下さい！

2015 年 Infection Prevention and Hygiene (感染症予防と衛生管理)

2016 年 Medication Safety (薬剤安全)

2017 年 Patient Safety and Communication (患者安全とコミュニケーション)

2018 年 Patient Safety and eHealth (患者安全と e-ヘルス\*1)

\*1 情報通信技術(ICT)を活用したヘルスケアサービス

図1. ドイツにおける国際患者安全の日 (International Patient Safety Day) の取り組み

2019 年(第 1 回)

テーマ:A Global Health Priority (世界的な健康問題への優先事項)

スローガン: Speak up for patient safety! (患者安全のために声を上げよう)

2020 年(第 2 回)

テーマ: Health Worker Safety : A Priority for Patient Safety (医療従事者の安全: 患者安全の優先事項)

スローガン: Safe health workers, Safe patients (医療従事者の安全が患者を安全にする)

2021 年(第 3 回)

テーマ: Safe maternal and newborn care (安全な妊産婦と新生児のケア)

スローガン: Act now for safe and respectful childbirth! (安全で尊い出産のために今すぐ行動しよう!)

図2. 世界患者安全の日のテーマとスローガンの変遷



# 世界患者安全の日 記念イベント

世界保健機関(WHO)が制定した「世界患者安全の日(World Patient Safety Day) 9月17日」は3回目を迎え、2021年の世界患者安全の日のテーマは、「安全な妊産婦・新生児医療」です。今年度も、医療の質・安全学会では記念イベントを企画しました。



**会期** 2021年9月19日(日) 11:00-15:45  
9月20日(月・祝) 13:00-17:00

**開催方法** オンライン開催(Zoomウェビナー)ライブ配信  
ライブ配信および録画オンデマンド配信 配信期間:2週間程度(予定)  
配信場所:公益社団法人東京都看護協会

**対象** 医療安全管理者、医療安全に携わる方、周産期医療に携わる方、  
医療者の皆様、一般の方の皆様のご参加をお待ちしております。

**定員** 各日 500名 [先着順]参加申込者にオンライン参加のID・パスワードを発行します

**参加登録** 医療の質・安全学会WEBサイトにて受付

<http://qsh.jp/>

\*「受講証明書」を発行します。

(Zoom接続履歴等の発行要件を事前にご連絡します)

申込締切 2021年9月10日



**参加費** 1日目・2日目のご案内をご覧ください。

\*参加費は事前にお振込をお願いします。

\*参加登録完了メール「参加受理書」に記載の口座へお振込みください。

\*参加登録完了メールに記載の受付番号を振込人先生名の前に付けてお振込みください。

[受付番号]+[先生名]

\*一度納入された参加費は理由の如何を問わずご返金できませんので予めご了承願います。

\*入金確認後、オンライン参加のID・パスワードを発行します。

[お問合せ・緊急連絡先] 一般社団法人医療の質・安全学会事務局

<http://qsh.jp/>

〒113-0033 東京都文京区本郷2-29-1 渡辺ビル201

e-mail:secretary@qsh.jp

1日目 第37回医療安全管理者ネットワーク会議 in Web

「世界患者安全の日」記念イベント



# 有事にこそ優先すべきこと、それは「患者安全」

オンライン開催  
[Zoomウェビナー]

2021年 **9/19** (日) 11:00 - 15:45

ライブ配信および  
録画オンデマンド配信  
配信期間：2週間程度(予定)

**参加費** 医療の質・安全学会会員 5,500円 非会員 8,800円

WHOが制定した“世界患者安全の日(World Patient Safety Day) 9月17日”は3回目を迎え、医療の質・安全学会では記念イベントを企画しました。その1日目が当医療安全管理者ネットワーク会議です。新型コロナウイルス影響下という有事にこそ優先すべきことは「患者安全」だというメッセージを掲げてオンラインで開催します。この日が、患者安全のために取り組むべきことを考える機会となり、次の一步を踏み出す節目の日となるよう期待いたします。

**開会挨拶** 医療の質・安全学会 理事長  
京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 部長・教授 **松村 由美**

**来賓挨拶** 厚生労働省医政局  
総務課医療安全推進室 室長 **岡田 就将**

## 午前の部 11:15-12:25

**座長** 自治医科大学附属さいたま医療センター  
医療安全・渉外対策部 副部長 **亀森 康子**

## 午後の部 13:15-15:40

**座長** 医療の質・安全学会 ネットワーク委員  
廣和会・正志会本部 看護業務担当部長 **佐々木 久美子**

**講演 1** セーフティIIの実践  
～しなやかな医療現場を創るには～  
立教大学名誉教授 株式会社社会安全研究所技術顧問 **芳賀 繁**

**講演 1** その“ダブルチェック”は万能か？  
京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 部長・教授 **松村 由美**

**講演 2** 新型コロナウイルスワクチン接種アクセシビリティ事例集  
～埼玉県戸田市の危機管理防災課の取り組み～  
戸田市 危機管理防災課 主幹 **本山 翔太**

**講演 2** 患者間違いに関する事例の現状  
日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部 部長 **坂口 美佐**

**講演 3** 第16回医療の質・安全学会学術集会  
開催に向けてのメッセージ  
第16回医療の質・安全学会学術集会大会長  
日本赤十字社 医療事業推進本部 総括副本部長 **矢野 真**

**講演 3** 国際患者安全目標の1丁目1番地は「患者誤認防止」  
～患者誤認防止の手順とは(医療安全管理者ネットワーク会議より)～  
公益財団法人田村興福会 医学研究所北野病院 看護部長 **寺井 美峰子**

## 休憩 12:25-13:15

後援 ニプロ株式会社からの情報提供

**講演 4** 東京都内の病院における  
患者誤認防止対策の実態調査  
東京都ナースプラザ・ナースバンク東京 相談員 **駒木根 由美子**

**講演 5** 基本手技としての患者確認  
～医師の立場から～  
旭中央病院 産婦人科 参与・地域産産期母子医療センター 参与・  
医療安全管理推進室 顧問 **鈴木 真**

## 質疑応答 15:25-15:40



後援 ニプロ株式会社

2日目 2021 WHO世界患者安全の日 妊産婦安全推進シンポジウム

スローガン

妊産婦安全に  
更なるチームの力を!オンライン開催  
[Zoomウェビナー]

2021年 9/20 (月・祝) 13:00 - 17:00

ライブ配信および  
録画オンデマンド配信  
配信期間: 2週間程度(予定)

**参加費** 日本周産期・新生児医学会会員／医療の質・安全学会会員 1,100円  
※専門医単位認定を申請中です。 非会員 2,200円

世界患者安全の日2021年のテーマは、「安全な妊産婦・新生児医療」です。そこで2日目は、WHOから日本の皆さんへのメッセージに始まり、世界の周産期医療の現状について学びます。国内の関係者が広く集い、すでに世界トップレベルに達している日本における妊産婦安全に係る残された課題について理解を深め、医療による害のない世界の実現に向け、更なる改善をめざし意見を出し合います。今回の取り組みは妊産婦安全共同プロジェクトの一環として行われ、本年度中に様々な取り組みを実施してゆきます。

開会挨拶 医療の質・安全学会 副理事長 藤田医科大学病院医療の質管理室 教授 安田 あゆ子

## 第1部 13:10-15:30

講演 「WHOから日本の皆さんへメッセージ」

1 世界保健機関 担当者

講演 国際比較でみた「周産期医療」と患者安全の課題:変わろうとするアフリカからわかること

2 株式会社・国際テクノ・センター顧問・国際開発コンサルタント 半田 祐二郎

講演 日本の妊産婦医療の歴史・現状・課題(仮)

3 三重大学医学部産科婦人科学 教授 池田 智明

講演 周産期母体を守るために～急変の感知と迅速な対応

4 京都府立医科大学救急医療学教室 講師 山畑 佳篤

講演 妊産婦脳卒中の現状と課題

5 京都大学大学院医学研究科脳神経外科 准教授 吉田 和道

講演 周産期チームを活かす組織における心理的安全性

6 近畿大学病院 安全管理部・医療安全対策室 室長・教授 辰巳 陽一

## 第2部 15:40-16:55 パネルディスカッション

分娩の更なる安全の向上に向けて:日本の残された課題と解決策は?

オーガナイザー 安田 あゆ子

パネリスト 聖路加国際大学・聖路加国際病院小児科臨床教授・医長 草川 功

亀田総合病院薬剤部長 舟越 亮寛 ほか

開会挨拶 医療の質・安全学会 理事長  
京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 部長・教授 松村 由美

主催



一般社団法人  
医療の質・安全学会  
Japanese Society for Quality and Safety in Healthcare

共催



企画 妊産婦安全共同プロジェクト

## 委員会・部会活動報告

### 機関誌「医療と安全」編集委員会

機関誌編集委員会編集委員長

佐和貞治

日本医療安全学会の機関誌「医療と安全」の編集委員会を代表してご挨拶を兼ねて現状報告をさせていただきます。この機関誌は年2回の発刊を目標としています。これまでに12号までが発行されました。前委員長・委員会の下で発行された11号までは、投稿された原著や症例報告と学会事務局からの連絡事項等で構成されていました。私が担当させて頂くこととなった12号からは、日本医療安全学会の Patient Safety 賞受賞記念や、各施設での活動紹介などの依頼原稿も含めるようにいたしました。現在、基本は電子版となり、希望者並びに国会図書館への納本のためにのみ印刷体で発行を行っています。2021年より、大磯新理事長の下で学会事務局も東京から浜松に移転し、さらに新型コロナウイルスのパンデミックの中、投稿査読作業や編集発刊事務などが一旦、凍結状態に陥り、13号の編集は困難を極めています。なんとか近日中に発刊いたす予定です。この13号からは、毎月特集を決めて、関連記事はその領域のご専門の方にご執筆依頼させて頂くことや、各施設での活動紹介、さらに部門紹介や、柔らかい記事も含めるようにして、皆さんの様々な活動の報告の場として、また忙しい業務の合間に気軽に楽しく読んでいただけるような内容に更新していくことを目指しています。

### 広報委員会

広報委員会委員長

水本 一弘

ニューズレターをご覧いただいている皆様に、広報委員会の活動に関して簡単にご報告させていただきます。2013年に設立された本学会において、広報委員会は、これまでもニューズレター発行などを通じて医療安全に関する情報を広く発信しつつ、本学会をより多くの方に知っていただけるよう活動してまいりました。本年2021年実施の組織改編に伴い、広報委員会はその構成メンバーを大幅に変更いたしました。現在は、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士などの医療者と、患者団体関係者、患者・家族支援団体関係者、報道関係者、大学教員、法律専門家などの一般市民との両者から成る15名の委員で構成しています。主な活動は、年4回発刊予定のニューズレターの編集・発行、本会ホームページの編集・運用や、主に一般市民を対象とした広報イベントの企画・運営などになります。今年、COVID-19の影響もあって、紹介にとどまった「世界患者安全の日」に関して、来年以降は、記念イベントの開催を予定しています。さらに、今後、Social networking service, SNSなどの媒体を介した情報発信活動も開始する予定です。皆様の暖かいご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 学術総会開催報告

### 第7回日本医療安全学会学術総会開催報告

第七回医療安全学会総会 共同総会長(代表総会長)

四柳 宏(東京大学医科学研究所附属病院 病院長)

第7回日本医療安全学会学術総会にご参加頂いた皆様、本当にありがとうございました。東京は第三回緊急事態宣言の最中でしたが、500名以上の方に参加して頂いたことを本当に嬉しく思っております。

第7回学術総会は第6回学術総会に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響をまともに受け、完全ウェブ開催になってしまいました。会場で直接話ができず、参加後に懇親の場を持つこともできないという学術集会は今年限りにしたいものですが、よいこともいくつかあったかと思えます。東京への出張が許されない地方の会員に参加して頂いたこと、オンデマンド配信により自分の興味ある話を何度でも聴くことができたこと、パネル討論会で短時間でしたが討論ができたことなどです。

新型コロナウイルス感染症は医療安全にも大きな影響を及ぼしました。医療崩壊が叫ばれる中、参加者の皆様は様々な講演・発表をご自身に引き寄せて聴かれたのではなかったでしょうか。BCPに始まる医療体制の維持、感染対策にどうしても神経が向く中の安全確保、精神的に疲弊する中での医療従事者サポートなど興味深い演題が数多くありました。

新型コロナウイルス感染症は日本の医療の様々な欠陥を赤裸々にしていますが、その中で闘う医療者の美しい姿も明らかにしています。医療者一人一人の能力の高さ、責任感の強さにも特筆するものがありますが、職種を超えて協力することのすばらしさを私自身は強く感じています。医療安全を志す私たちの目指す姿でもあるように思います。

今回の学会開催にあたっては会員の皆様に加え、事務局の皆様にも本当にお世話になりました。学会事務局の方の力だけでWeb開催を行うことができたことはこれまでの準備と研鑽あつてのものとして改めて深く感謝申し上げます。

## 第7回日本医療安全学会学術総会 報告記

第七回医療安全学会総会 共同総会長  
清野敏一(帝京平成大学薬学部教授)

2021年5月29日と30日に第7回日本医療安全学会学術総会が開催されました。コロナ禍のため、残念ながらWeb開催となってしまいましたが、全国から多くの先生方にご参加いただき、感謝の言葉もありません。この報告記を作成している9月においても、新型コロナウイルス感染症は終息の気配すらなく、緊急事態宣言下にあり、皆様も大変な毎日をお過ごしのことと思います。心からお見舞い申し上げます。

さて、第7回学術総会においては、代表総会長の四柳先生が感染症のご専門ということもあり、「新型コロナウイルスの特徴と病院における医療体制の構築」、「コロナ禍における医療と医療安全」などのまさに直近の問題、また「コロナ禍の心理的安全性による医療安全の基盤強化に向けて」など疲弊している医療現場での心理面のサポートの問題など興味深い話題をお届けできたと感じております。個人的には、「ダイヤモンドプリンセス号 新型コロナ対策の活動報告とその法律関係」などを興味深く拝聴することができました。まだまだ、厳しい状況が続くと思いますが皆様のご健勝を祈念いたします。

最後に、Web開催という中で、円滑な拝聴のためにデータの管理、加工など、ご支援いただいた学会の担当者の皆様に心より御礼申し上げます。

## 第7回日本医療安全学会学術総会を終えて



第7回日本医療安全学会学術総会 共同総会長

山形大学大学院医学系研究科

看護学専攻 基礎看護学 教授 布施淳子

第7回日本医療安全学会学術総会では学会員の皆様に大変お世話になりました。学会のテーマとして「医療安全—温故知新—次代型医療安全の構築—」を掲げ、東京大学医科学研究所附属病院長・四柳宏先生、帝京平成大学薬学部教授・清野敏一先生と共に開催させていただきました。当初は東京都立産業貿易センターを会場として開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルスの感染状況は厳しく、Webによる開催となりました。本来であれば学会員の皆様と一同に会し、研鑽を積まれた医療安全に関する内容を共有する好機だったのですが、それが許されない状況でした。しかし、本学術総会では、特別講演・招待講演6題、官庁講演2題、シンポジウム5題、教育講演15題と通常開催ではプログラムとして成立させることが難しいボリュームを皆様にお届けできたのではないかと思います。これはオンデマンドやライブによるWeb開催ならではかもしれません。

内容は新型コロナウイルス関連・PMDA関連・医療行政関連・マネジメント関連・医療安全教育関連・認知心理学関連と幅広く多岐にわたるものでした。本学術総会で多くの医療安全情報を皆様と共有できたことを幸甚に存じます。

それでは、次回開催の本学会の理事長である浜松医科大学医療法学教室教授・大磯義一郎先生、帝京平成大学薬学部教授・井手口直子先生、獨協医科大学病院医療安全推進センター教授・辰元衆人先生にバトンをお渡しいたします。次回の学術総会が素晴らしいものとなりますよう心より祈っております。

最後に改めて第7回日本医療安全学会学術総会に快くご協力いただいた皆様に深謝申し上げます。

## 編集後記

未曾有のコロナ禍の混乱の中で、日本医療安全学会の新体制が幕を開けました。このニューズレターも編集体制を一新し、四半期ごとに医療安全に関わるトピックスをお伝えしていく予定です。佐和編集委員長からの告知の通り、機関紙「医療と安全」も毎号、特集が組まれるなどリニューアルされます。

会員各位からの積極的な投稿をお待ちしています。デルタ株による感染拡大の猛威は、今しばらく私たちの日常に大きな影を落としますが、来るべきポストコロナの時代を見据えて、皆様と共に未来に歩を進めたいと思います。

(H.K.)